

社会参加章 受章者の事例発表

延岡の語り部萌ぎの会 山内 文代 宮崎県延岡市

Joyんと俱楽部 片山 建夫 波多 勝博 福岡県北九州市

熊本市長嶺校区第一町内老人クラブ長成会 渡邊 新介 熊本県熊本市

表章式のアーカイブ視聴はこちらから：

延岡の語り部萌ぎの会 山内 文代



私たちの会は、平成16年4月に有志4名で発足いたしました。現在の会員数は22名です。男性が5名、女性が17名、平均年齢が75歳となっております。



次は語りの活動の様子でございます。定期的に2か所、月に1回ずつ伺っております。その他に、小学校、中学校、高齢者施設、それから企業、延岡の団体などから出前依頼がございます。それに向けて練習をし、出前語りに行っております。

おかげさまで、昨年は70回以上、1,000名以上の方が私たちの話を聞いてくださいました。

日帰り研修

- 民話の舞台に出向き地元の詳しい方の話を聴き継承する
- 他地区的民話語りをしている会との交流を実施
お互い地元の民話を語り親睦を深めている



次は日帰り研修でございます。年に2回行っています。延岡の民話の舞台となったところに、実際に出向いていきます。そして、地元の詳しい方の話を聞いて、伝承しています。とっても大事なことです。

それと、延岡市外で私たちと同じ語り部活動をしているところがございます。そこに行って交流をし、そしてお互いに方言で語り合う温かさを感じております。スライド左の方々が西米良村への交流会です。それから右側が高千穂の交流会をしました。次は手作りで教本を作りました。

製本

手作りで教本を80冊作成。小中学校、図書館に寄贈



そして、小学校、中学校、図書館に寄贈いたしました。80冊でした。作るのに苦労はありましたが、とても喜ばれました。そして、この教本を配ることで、民話がこんなにたくさんあるということを知っていただけております。とってもありがとうございます。

最後になります。私たち会員22名、そして私たちのPRをするために、1人ずつ持つて歩いております。そして、いろいろなところで活動するときに、この延岡の語り部を宣伝します。すると、それを聞いた方が「1回延岡の民話を聞いてみようか」そう言って連絡をしてくださいます。おかげさまで、会員の力が大きな力となっております。そして実際に延岡の民話を聞いてくださいます。これは延岡の心優しい方たちが、たくさん集まってくれます。こどもたちに伝承するために、これからも頑張っていきたいと思います。そして、長い民話になると、何ヶ月かけても暗記しなくてはなりません。何も見ないで語ることが私たちの活動です。ですので、長い長文を覚えた時には、生きがいとやりがいを感じております。これからも一生懸命に頑張りたいと思います。

Joyんと俱楽部 片山 建夫 波多 勝博



私たちのモットーは、「地域の仲間の輪を広げ、みんなで楽しく生活に潤いと喜びを」です。企救丘は北九州
市小倉南区の南部にある住宅地です。



地域では、夏祭りや体育祭、文化祭、敬老会など、年間を通じて行事が盛んです。「声かけて、子どもの育つ
企救丘」をスローガンに掲げ、全体で活動し、支え合っています。



このスライドが市民センターの外観です。春になるとバラの花がきれいに咲きます。活動のきっかけは、地域に埋もれている団塊世代の男性の存在でした。退職後に知り合いが少なく、地域との関わり合いが薄い、市民センターは女性ばかりで行きづらいという声も多く聞かれました。

そこで、男性が気軽に参加できる場を作ろうと呼びかけました。こうしてJoyんと俱楽部が誕生しました。最初は23名からのスタートでした。その後、年々活動回数と仲間が増え、今では40名を超えております。Joyんという名前は、joint=つながると、joy=よろこびを合わせた造語です。うんと喜ぶ、うんと笑う、そしてたくさんのがいを得あうという思いを入れて、んをつけました。「名前を考えるのも楽しくてちょっと照れ臭いけどいい名前だね」と笑い合った日を覚えております。

平成21年にスタートし、本年度で16年目になります。「楽しみながら、緩やかなるつながり」を合言葉に活動を続けております。活動はとても多彩です。学び、体験、交流の三拍子が揃った活動です。



こちらは活動のスナップです。バスハイクでは、角島や、金子みすゞ記念館などいろいろな場所に出かけました。行きたびに次はどこに行こうかと話が盛り上がります。



次に、北九州市の歴史を学ぶ、「北九州物語」。製鉄の街と発展した北九州の歩みや世界遺産の登録の背景など、地域の誇りを改めて感じました。



こちらは毎年恒例となった、らっきょう漬け講座です。今年で6回目を迎え、今では我が家の中として奥様方にも大好評です。

ギラヴァンツ北九州のサッカー観戦では、通常入れない記者室なども見学し、選手との交流も楽しみました。スポーツを通して地域への愛着も深まっております。ウォーキング＆バーベキュー親睦会では、ピザを段ボールで焼きました。みんな「意外といけるね」と、大盛り上がりでした。



最後は平尾台の鉱山見学です。普段は立ち入れない現場のスケールの大きさに、参加者全員が圧倒されました。

このように学び、体験、交流を通して、いつも笑顔が絶えない活動を続けています。活動を重ねるうちに、地域での信頼も広がりました。青色パトロールでの見回り活動に参加し、今では地域の顔として知られている存在です。一番の成果は、仲間ができたことです。男性が気軽に集まれる場所ができたことで、地域とのつながりも広がりました。今でも文化祭などに参加し、地域行事を支える存在となっています。地域に出てよかったですと笑う機会が増えたという声も多いです。



こちらが活動のスナップです。これからは、現役世代や若い人たちに関わりを持ってもらいながら、緩やかにつながれる全世界がジョイントする活動を続けていきたいと思っております。

市民センターを拠点におしゃべりするカフェなど、気楽に集まれる場所がいいです。市民センターが、街の駅として誰もが立ち寄れる拠点になることを願っています。Joyんと俱楽部の経験を生かし、地域をつなぐ活動を続けていきます。これからも、仲間と共に笑顔で活動できることを大切にしています。

熊本市長嶺校区第一町内老人クラブ長成会 渡邊 新介



長成会という単位老人クラブは平成9年に結成されました。そして、平成12年、これは介護保険が設定された年です。私自身も2年足らずで長成会の会長になり、平成17年に校区老連の会長になりました。非常に混乱したような世の中で、老人クラブは存在感がほとんど見えず、スポーツはゲートボール、酒飲んで喧嘩ばかりしている状況の中で、校区の会長を受け、これは何とかしないといけないと思いました。

実は平成17年から18年には、日本中の子どもが犯罪を受けて戸惑っているときに、老人クラブよ、あなた達がパトロールをしなさいということで、国から県、県から市、市から自治会、こういったところに号令がかかり、ここで老人クラブの存在感をしっかりと立ち上げようと、皆に認めてもらおうということでスタートしました。

幸い、1年、2年、3年と経つうちに、孫や子どもが、じいちゃん、ばあちゃん、なんかすごいねって言って褒められ、やっていきました。しかし我々クラブの平均年齢80代というような状況にありました。6年、7年と経つうちに会員が減ってくるわけです。これはどうにもならないということで、平成24年から自治会との交渉を行いました。

長成会の活動
<ul style="list-style-type: none">○ 平成9年に単位老人クラブとして結成○ 平成18年から子ども見守りパトロールを実施 <p>た お う わ ・見守り活動に対し、小学校の全校集会で感謝のメッセージ集が贈られた ・登下校の見守りの様子</p>

その前にここにパトロールの写真が出ていますが、平成18年にパトロールを始め、来年で20歳を迎えます。下校時の見守り担当しています。それから下校時の見守りです。小学生の顔は映せませんので、これは後ろから撮った写真です。

そしてこの次は、1年前に小学校の全校集会で、我々パトロールの皆さんにということで、全校の生徒が感謝状というものを1冊ずつ集まり、それを全部、老人クラブで回覧し、その時の感謝状をいただいているところです。

長成会の活動

- 平成26年4月に長嶺校区自治会の総会でジュニア・シニア・サポート・センターの設立が承認され、地域自治会と協働し、見守りパトロールを強化。登下校時の防犯・交通安全活動の他、高齢者の現状把握や高齢者が参加できる行事の実施等に取り組みつつ、民生委員と協力し総合的なサポートを行っている。



これは月に3、4回、小学校の一斉下校というものがあります。その中で大体長嶺小学校は1,000人を超えてます。これが一斉に帰ります。ここの人�数が足りていません。2人で必ず行います。

平成26年4月に、いわゆるパトロールの会員も、それから全老人クラブの会員もどんどん減ってきており、ここは何とかしないといけないということで、26年の4月、西暦で2014年になります。町内の自治会長と、その毎日のごとく、何とか会員を増やそう、パトロールを増やそう、このまま行くと、あと5年もたてば会員や役員がかなり減ってくる。限界クラブになってどうしますかというような形で交渉をしました。

それなら自治会と老人クラブは連携、提携ということで、ジュニア・シニア・サポートセンターを作ろうという結果になりました。このジュニア・シニア・サポートセンター、我々は一般的にJSSCという名前で、これをしっかりとやっていこうとなります。クラブは長成会で、一般のことも全て丸々やってください、その代わり、JSSCを自治会の中でまた一緒にやっていこう。その組織は、我々老人クラブは長成会、自治会からは福祉部、そして防災関係の自治会から、防災関連の方々を説得して一緒にやっていこうとなりました。

それにもう一つ、これが大切でした。町内の有志を募り、このJSSCの会員にしようと。これはあくまでも自治会の中でということで、私やはりこういう老人クラブ、年齢に期限があるので、なんとかクラブ単位では将来やっていけないというところから、自治会と組織をがっちり固めて、自治会と提携、M&Aとはいきませんが、タッグをしてやっていけば未来は明るいというところから、現在に至っております。

そこで今申したように、このJSSCの組織は長成会、私がそのJSSCの会長をしています。そして福祉部は私と随行してきた方が、民生委員も兼務しております。老人クラブの副会長、幹事役として2、3名を老人クラブと組織の自治会から出し、それを現在しっかりとやっております。

ここに書いてある高齢者の現状の把握、高齢者が参加できる行事の実施等、それから民生委員、協力的、総合的なサポートセンター。このサポートセンターを専門部門としてやっていくということで現在に至ります。2026年でパトロール隊を立ち上げて20歳の誕生日を迎えるという状況です。これからも精一杯社会参加を推進、拡大してこの章にまた一層の啓蒙を図りたいと思います。